

# 東京・水戸藩徳川家小石川屋敷跡

(春日町遺跡第Ⅶ地点)

- 1 所在地 東京都文京区春日二丁目
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12) 一月～二〇〇四年三月
- 3 発掘機関 文京区遺跡調査会(文京区教育委員会)
- 4 調査担当者 加藤元信
- 5 遺跡の種類 遺物散布地・大名屋敷跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代、弥生時代、奈良時代、平安時代、近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、(株)東京ドームを事業主体とする東京ドーム第三遊園地



(東京西北部・東京東北部)

(通称「ラ・クア」) 建設に伴うものである。

当該遺跡は、小石川や平川をはじめとする複数の河川が、周辺の洪積台地を浸食・開析して合流し、「小石川大沼」と呼ばれる一大湿地を形成していた地域に所在する。過去に周辺地域

で実施された、水戸藩徳川家小石川屋敷跡の別地点の調査においては、縄文時代前期を嚆矢として、複数度にわたった海進・海退の痕跡と、主として古墳時代以降に本格的に行なわれるようになった水稲耕作の痕跡が、採取土壌の自然科学分析によって明らかにされている。

当該調査地点では、こうした沖積低地を屋敷地とするにあたって、人為的な客土・整地が行なわれている。整地された時期は明確にしないが、徳川家康の関八州への入国(天正一八年(一五八七))以後、おそらくは、水戸家がこの地に屋敷地を拝領した寛永六年(一六二九)までで、当該地域に所在していた浄土宗本妙寺やその他の武家屋敷地の造営前後の時期と考えられる。

調査では、縄文時代中期、弥生時代後期から古墳時代前期まで、ならびに奈良時代から平安時代までの土器破片も出土している。

水戸徳川家の江戸屋敷については本遺跡所在地である小石川が上屋敷、東京大学農学部所在地(文京区向丘)の駒込屋敷が中屋敷にあたり、それ以外にも本所(墨田区)の小梅屋敷が蔵屋敷として知られているが、いずれの屋敷も屋敷内の内部構造全体の詳細を知り得る絵図面が確認されておらず、発掘によって確認された建築遺構群などから、屋敷の空間構成を復原していく必要がある。

木簡二点は、大工地盤である整地層中から出土した。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) 「。□□□□□杉山長左衛門。」

御屋敷□□□□

「。○□□□□□□□後□。」

196×33×4 011

(2) 「拾月十□」

「。□□□□」

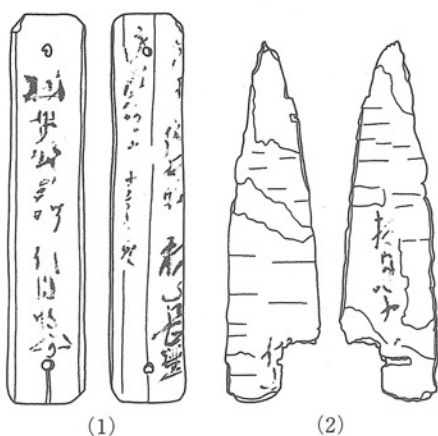
179×46×4 051

## 9 関係文献

(株)東京ドーム・文京区遺跡調査会『春日町遺跡第Ⅶ地点』(文京

区埋蔵文化財調査報告書三二、二〇〇四年)

(加藤元信)



(1)

(2)

## 木簡研究 第二二号

巻頭言―最近の木簡を取り巻く状況に思う―

田辺征夫

一九九九年出土の木簡

概要 平城宮跡 西隆寺跡 阿弥陀浄土院跡 平城京跡左京一条三  
坊十三坪 旧大乗院庭園 奈良町遺跡 上宮遺跡 長岡京跡 平安  
京穀倉院跡 六波羅政庁跡 平安京跡右京五条一坊六町 難波宮跡  
大坂城跡 池島・福万寺遺跡 吉井遺跡 時友遺跡 明石城武家屋  
敷跡 姫路駅周辺第四地点遺跡 龍野城跡 市辺遺跡 宮内堀脇遺  
跡 梶原遺跡 祢布ヶ森遺跡 雲出島貫遺跡 山的神遺跡 中村遺  
跡 水守遺跡 元島遺跡 千代南原遺跡第Ⅶ地点 西川・下寺尾遺  
跡 跡群 港区No.91遺跡 水戸藩徳川家小石川屋敷跡 香川・浅草  
芝崎町遺跡 入谷遺跡 宮町遺跡 大將軍遺跡 安土城跡 十里遺  
跡 前六供遺跡 荒井猫田遺跡 柳之御所遺跡 志羅山遺跡(1) 福井  
跡 山王遺跡 新田遺跡 高塚遺跡 一乗谷朝倉氏遺跡 福井  
跡(2) 山田遺跡 十三湊遺跡 高塚遺跡 畝田・寺中遺跡 堅田B遺跡  
城跡(1) 福井城跡(2) 観法寺遺跡 東木津遺跡 手洗野赤浦遺跡 八塚  
高岡町遺跡 須田藤の木遺跡 竹直神社遺跡 箕輪遺跡 馬越遺跡 大武II  
C遺跡 道場I遺跡 大御堂遺跡 妻ノ神遺跡 野中土手付遺跡 船戸  
遺跡 馬見坂遺跡 発久遺跡 大坪遺跡 喜時雨遺跡 岡山城  
桜田遺跡 中倉遺跡 土居遺跡 郡山城跡 萩城跡 周防国府跡  
二の丸跡 鹿田遺跡 敷地遺跡 徳島城下町跡 元岡遺跡群 今山遺  
跡 長安寺廃寺跡 飯塚遺跡 中原遺跡 銘苅直祿原遺跡  
一九七七年以前出土の木簡(二二)

奈良・飛鳥京跡

釈文の訂正と追加(三)

袴狭遺跡(一三・一四・一六・一七・二〇号) 湯ノ部遺跡(一九

号) 屋代遺跡群(一八号) 前橋城遺跡(一九号) 矢玉遺跡

(一七号) 洲崎遺跡(二二号) 福井城跡(二〇号) 磯部カ

ダ遺跡(一八号) 井上薬師堂遺跡(七号)

帳簿と木簡―正倉院文書の帳簿・継文と木簡―

木簡撮影概説―表現しにくい文字の撮影―

書評 鬼頭清明著『古代木簡と都城の研究』

森公章著『長屋王家木簡の基礎的研究』

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円